

# 新聞テレビのジャーナリズム は今後どうあるべきか

小島正美・食生活ジャーナリストの会代表

2020年1月22日

東大ホール・JFJ勉強会

# 課題（食・健康・科学ジャーナリズム）

- ①両論併記の功罪。どんなときには有効か。どんなふうに扱えばよいか。
- ②記事の構図は50年間変わらず。なぜ市民迎合的になるか。なぜ、もっと科学的な事実を正確に伝えないのか。
- ③新聞・テレビは「その後をフォローしない」。HPVワクチンは煽って終わり。メディアはなぜ、なかなか訂正に応じないのか。
- ④記者の科学教育はどうなっているか。記者の力量は今後、上がるのか。今後の記者教育に必要なことは何か。
- ⑤既存のメディアはネットの出現にどう対抗すればよいか。生き残り策はあるか。どこをどう変えればよいか。
- ⑥食、健康、医療問題で科学的な事実の正確さをもっと上手に伝える方法はないのか。

# ①②両論併記の構図・なぜ科学者と市民の声が同列なのか



◎構図とは＝ゲノム編集食品の記事（朝日19年7月9日）。科学者は「従来の育種と同じで安全」と言っている。主婦連、消費者団体連絡会など市民は「新しい技術に不安」「被害が起きたら責任をとるのか」「食べたたくない」の両論併記。どちらかといえば、市民の不安を強調。市民の声を入れずに記事を書くことは不可能。なぜか？

# 記事の構図は安全よりも不安を重視

◎期待される消費者像はいつも「不安です」

いろいろな消費者がいるのに・・・

◎50年間同じ構図＝政府や科学者は「安全」と説明、しかし、消費者は「不安」「信頼できない」と言っている。

- ・政府や科学者の説明は信頼できないということか
- ・双方を同時に並べると「不安」が余計に際立つ＝サーマル・グリル錯覚と似ている（冷たいものと熱いものを同時に触ると熱いものが余計に熱く感じられる）。

◎この構図が不思議だと思われなことが不思議。

# いったい記者は何を伝えたいのか

週刊朝日 10月23日号



## TPPで食は脅かされる

- ・記事「GM作物は除草剤耐性や害虫を殺す毒素をもち、摂取すると発がん性など人に悪影響も指摘される」
  - ・記事「厚労省はネオニコ農薬の基準を緩和したが、アメリカの意向を汲んでいるとしか思えない措置である」
- ◎なぜ山田元大臣や西尾正道氏だけで記事をつくるのか。

# 週刊朝日（2015年10月23日）特集 編集長は「懸念を伝えただけ」と回答

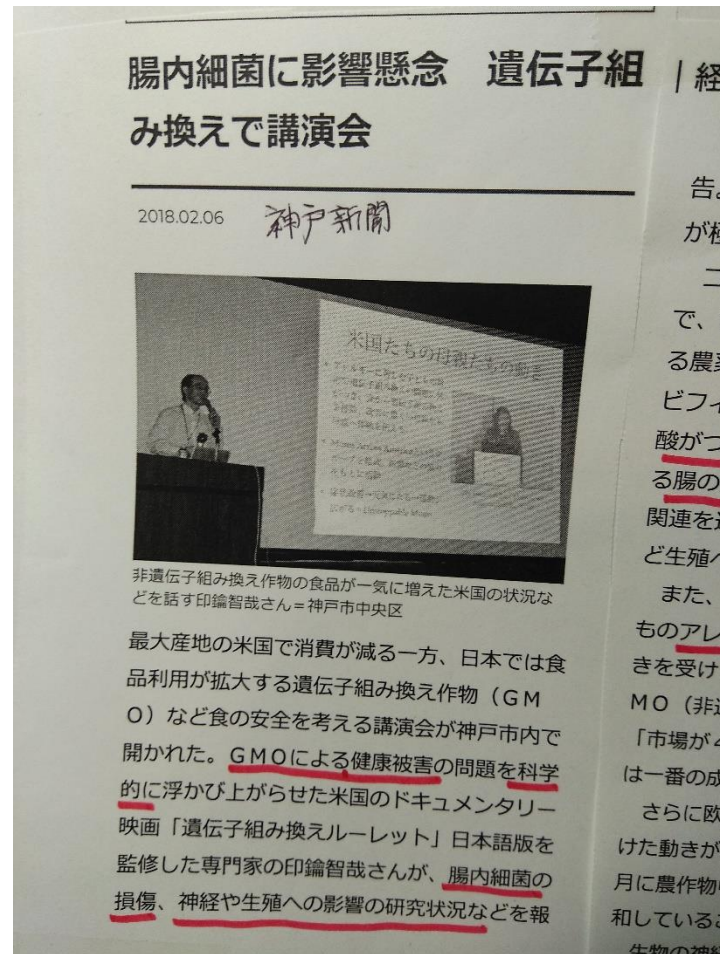
◎記事の抜粋＝「食品の安全性では、遺伝子組み換え（GM）作物がフリーパスになるだろう。GM作物は除草剤耐性や害虫を殺す毒素を持ち、摂取すると発がん性など人体への悪影響も指摘される。・・・」

◎食品安全情報ネットワークが質問状。編集長は「あなたたちと安全性の論争を行うつもりはない。そうした市民の懸念を伝えているだけです・・・」と回答。

■市民の懸念を伝えるだけなら記者は不要。その不安や懸念に科学的な根拠があるかどうかを検証するのがメディアのはず。でもそれを見たことない。



# ①⑥市民の懸念を伝える最悪の記事例。 すべての生協の人たちの話を並べた内容



◎GM作物は腸内細菌を損傷。必須アミノ酸をつくり出せなくなる（根拠不明）

◎精子の減少生殖への影響（論文が読みたい）

◎米国で増大する腸の疾患、自閉症、認知症の原因の疑い

■論説委員協会の記者は、何人も書いている。科学の重要性は、市民に何を伝えるべきか。市民は、何を信じるべきか。市民は、何を考えるべきか。市民は、何を行動するべきか。市民は、何を求めるべきか。市民は、何を望むべきか。市民は、何を願うべきか。市民は、何を希望するべきか。市民は、何を夢見るべきか。市民は、何を理想とするべきか。市民は、何を志すべきか。市民は、何を成すべきか。市民は、何を成し遂げるべきか。市民は、何を達成するべきか。市民は、何を達成し得るべきか。市民は、何を達成し得るべきか。市民は、何を達成し得るべきか。

# ②⑥本当に知りたいことは何か



◎最後に弁護士のコメ農薬は子供の脳が発達に影響がある」という声がある。ネオニコチノイド系農薬は子供の脳が発達に影響がある。・・」

◎本当に脳への影響があると思確かなら、論文を自分で読んで、その詳細を自分で読んで、その折れを折る。自分で論文を

か解の折れを折る。自分で論文を

骨危ないと言いつつも終わらな

んで納得したのか？



# これまでで分かるメディアの特性

■なぜ、多数の科学者の声が届きにくいのか。

- ・メディアは科学者よりも市民の声、不安、懸念を重視する
- ・メディアは科学者、市民とも「少数」意見を大事にする。
- ・メディアは「弱者」の立場に立つ
- ・メディアは「共感」を好む
- ・メディアは「分かりやすい物語」を好む

◎メディアは市民に寄り添う、忖度する。市民に弱い。科学的な事実よりも、市民の気持ちを重視する。

# 記者のやっていることは何か 改善策はあるか

①自分の描くストーリーに合った専門家の意見・結論を載せているだけ。その意見がどういう研究方法、調査で導かれたかに関心がない。重要なのは、研究方法と情報の信頼度。

【改善策】◎細胞レベル、動物実験レベルの話は記事にしない。

◎情報の信頼度のピラミッドのどの研究方法かを必ず明記する。

◎メタ分析を語れる学者に取材する。

◎検出された場合、必ず数値を書く。絶対的なリスクの度合いを示す。

◎できれば、出典も示す（新聞で無理なら、ネットでも）。ガッテンなら、どういう専門家に聞いたかを示す。それは可能か。

# ⑥ 「ネットdeカガク」から引用

## エビデンスレベル

### 信頼性の高さを考えよう



# アルコールに適量なし。1日1杯でもがんリスク上がる。共同通信の全文

(19年12月9日) 1日ワイン1杯程度の少量のアルコールでも10年間飲酒を続けると、がんになるリスクが5%上がるとの研究結果を東京大などのチームが9日、米医学誌に発表した。少量の飲酒は循環器病などのリスクを下げるとの報告もあるが、がんに関しては量に応じて危険性が高まるとしている。

少量のアルコールで、がんのリスクが高まるとの研究は最近、海外でも報告されているが、日本人を大規模に調べた研究は初めて。チームの財津將嘉東大助教(公衆衛生学)は「リスクを自覚してお酒と付き合ってほしい」と話している。

# 12月16日の日経新聞（共同）本文

- 少量のアルコールで、がんのリスクが高まるとの研究は最近、海外でも報告されているが、日本人を大規模に調べた研究は初めて。チームの財津将嘉東大助教（公衆衛生学）は「リスクを自覚してお酒と付き合い合っほしい」と話している。
- チームは、2005～16年に全国33の労災病院に入院したがん患者、約6万3千人と、がんではない患者、約6万3千人の飲酒量や飲酒期間を分析した。この結果、飲酒しない人ががんになるリスクが最も低く、飲酒量が多いほどがんになりやすいことが分かった。
- 1日に日本酒1合、ワイン1杯（180ミリリットル）、ビール中瓶1本、ウイスキー1杯（60ミリリットル）のいずれかに相当するアルコールを10年間飲み続けた場合、食道がんになるリスクが45%、喉頭がんは22%、大腸がんは8%、胃がんは6%上昇。がん全体では5%上がるとしている。



# どういいう研究方法かは やはり重要

◎記事の分量が少ないときに

どんな書き方がよいか、どんな工夫が必要か？

◎もし、この問題を「ガッテン」で取り上げたら  
どういいう展開になるか。研究デザインの説明はできるか？

## ④記者の力量は上がっているか

◎毎日新聞・北九州版（19・10月24日）

「トマトで無添加着色」（見出し）、本文で「WHOの研究機関は2015年、添加物入り加工肉の発がんリスクを指摘し、添加物削減は加工肉製造の課題となっている」

■そもそも研究機関とはどこか。IARCはリスクを評価する機関ではない。無添加の加工肉には発がん性なしと記者は判断したが、デスクは2015年の分類を自ら調べなかったのか。

・加工肉製造の課題という言い方はリリースの丸写し。

◎記者とデスクの勉強不足。どう力量を上げるのか。

◎新聞社には記者の科学的な教育は一切ない。これで生き残れるか。

## ②両論併記はどうあるべきか



◎科学者の同意の勢力図は  
50対50か、1対99か

◎メディアは、科学者の世界の  
意見の分布を示さない

◎少数意見を尊重することに意  
義を見出すからだ。少数意見を  
無視しないことも大事。

◎少数派に有利に働く効果あり  
か！

# 両論併記は不変。メディアは安心重視

◎私の記者40年の経験から、両論併記の構図は50年間変わらず。

◎市民の不安、懸念を載せるのが記者の仕事。不安に応えるのは政府や科学者の仕事。一方、科学者たちの多数の声を載せない傾向がある。

◎なぜ、科学者の多数（科学界の合意）を報じないのか。多数派が正しいかどうかとは別。どういう根拠で科学的合意ができたかを知りたいからだ。

■科学者の説明、解説を書きながら、それに納得しない市民の不安を載せることは、科学者の見解よりも、市民の不安、気持ちを重視している証拠。安心（感情） > 安全（科学）。

# ③共同通信社の誤報。中日新聞18・9月3日付。ほか全国の地方紙に掲載

## MOX再処理を断念

### 電力10社 巨額費用の確保困難

通常の前発でプルトニウム・ウラン混合酸化物(MOX)燃料を燃やすプルサーマルを巡り、原発を持つ電力会社十社が、一度使ったMOX燃料を再処理して再び燃料として利用するための費用の計上を、二〇一六年度以降中止していたことが分かった。政府は核燃料サイクル政策の一環としてMOX燃料を再利用する方針を掲げていたが、電力各社が費用計上をやめたことで資金面での根拠を失い、事実上、MOX再処理の断念となる。

MOX再処理には新たな再処理工場の建設が必要で、巨額の費用がかかることが断念の理由とみられる。政府は七月に閣議決定したエネルギー基本計画で、使用済みMOX燃料の再処理には新たな「処理・処分の方策を検討」と明記、初めて廃棄物として処分する選択肢にも言及した。MOX再処理ができなくなれば、核燃料の再利用は一度のみとなり、核燃料サイクルの意義は大きく崩れることになる。

プルサーマルは、再稼働した関西電力高浜原発や四国電力伊方原発、九州電力玄海原発で実施中。政府と電力会社は国内外に保有する余剰プルトニウム削減のため、今後も順次プルサーマルの原発を増やしたいと考えている。

**MOX燃料の再処理**  
 政府と大手電力会社は、原発で使い終わった核燃料からプルトニウムを取り出し、ウランと混ぜた混合酸化物(MOX)燃料を、通常の前発で再利用するプルサーマルに燃やして発電する。

再処理工場(青森県六ヶ所村)

使用済み核燃料

MOX燃料

第2再処理工場

プルサーマルの流れ

プルトニウムとウランの混合酸化物(MOX)燃料



# 訂正を載せることは「恥」でしょうか

◎間違いを指摘されたら、「訂正を載せる」、たったそれだけで済む話。なぜ、訂正を出さないのか。不思議ではありませんか。

・異物の入った食品を交換するのと同じ。

◎なぜ、新聞社は訂正に抵抗するのか。読者のことを全く考えていない証拠。読者は正確な情報を読みただけ。その当たり前前の要求になぜ、応えられないのか。何がネックなのか？

◎訂正を出さないことで共同通信は何を守ろうとしているのか。

◎訂正は媒体、記者の「恥」でしょうか。訂正を出せば、信頼を失うでしょうか。

■確実に言えるのは、読者よりも自分の体面を重視。正確な情報を伝えようとしていないこと。

# ③HPVワクチン報道でも 科学よりも市民の声

## ポイント

- ・ 記者は市民もしくは市民団体重視
  - ・ 記者は少数派の専門家に着目
- ・ 問題点を指摘するのが記者の仕事と認識

### ③HPVワクチン報道の経過（私の体感）

■2013年4月から国の定期接種始まる。無料で接種。

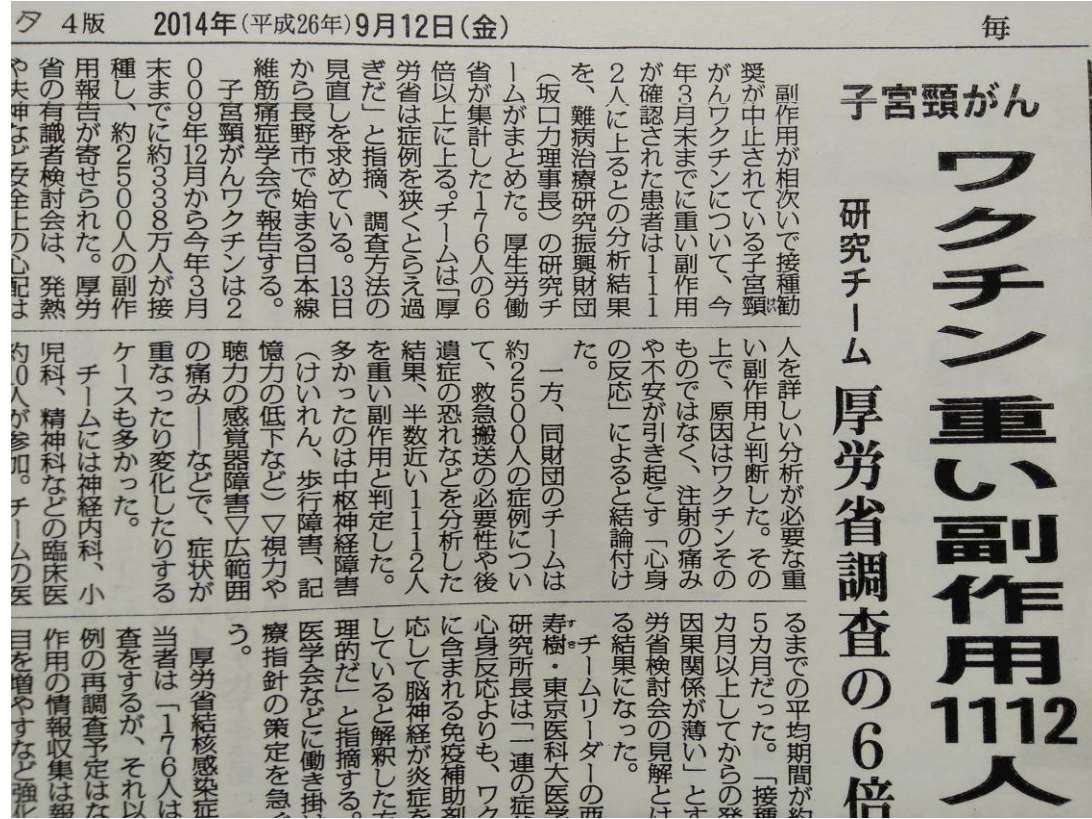
・しかし、2013年3月25日、被害者の親が東京で記者会見。足のけいれんなどを映したCDを配布。メディアは被害者の声を次々に載せた。このときはまだメリットとデメリットを公平に報道できた。

■2014年＝徐々に危険なイメージが醸成

・6月に西岡久寿樹氏（難病治療開発機構理事長）がHANS「子宮頸がんワクチン関連神経免疫異常症候群」を記者に公表。9月にはハンスを中心に「重い副作用1112人」（毎日新聞）と大きな記事。脳や全身に諸症状が発生するイメージが徐々に強くなっていった。

・ワクチンのメリットを記者に説明していた「子宮頸がん征圧の専門家会議」が製薬会社から金銭を支給されていたなどメリットを説く学者には不利な報道が増えた。

## ②危ないニュースはいつも大きな扱い



- ・多数派科学者のデータと苦しむ一部市民の姿、それを後押しする「共感的」な専門家。どっちが記者よりも市を呼ぶか。社会者、科学者よりも市民の不安を重視する。
- ・私が記者になっているわれたことは「市民に共感される話を探せ」「常に弱者の立場に立て」
- ・公立福生病院の人工透析治療の中止問題も明らか医師・病院を敵視した内容で展開

# 子宮頸がんワクチンでけいれん





# 2015年以降はもはや後戻りできず

■2015年~16年5月 = もはや危険のイメージが完全に定着

・15年7月、信州大学の池田氏の「特定の遺伝子が免疫異常に関係」の記事が各紙で報道。当時は私も「もしかして日本人特有の遺伝子が関係しているかも」と疑ったほど。

・16年3月、池田氏が「患者の8割が同じ遺伝子」と日本人特有の症状ではと口頭で公表。

・同日、TBSに池田氏登場「脳に異常が起きている」

・16年5月、札幌の日本小児科学会。ハンズ外来を開いた横田氏が患者を診て「こんな異常な症状は見たことがない」と発表。

◎TBSの映像と池田氏の影響は絶大だった。

# 危険イメージのピーク

## 池田氏のテレビ出演（2016年3月）

- ・ 国の研究班の代表が述べたインパクトは大きい
- ・ 信州大学副  
学長の証言
- ・ 誰もが信じる  
(あとで否定?)



# 流れを変えたのは一女性ジャーナリスト (2016年6月)



◎雑誌「ウエッジ」に村中璃子さん（医師でジャーナリスト）が「ねつ造」と報道。マウス1匹の試験、しかも直接接種したマウスではなかった。

- ・ 当時は「本当か」と思った
- ・ 信州大学の調査委員会を見守ることになった。

# 信州大学調査委員会の報告（16年11月）

◎（以下、組織方法を以て）本件マウスは、ワクチン等をも接種したN F 一 k B p 欠損マウスを組らせた。マウスは、ワクチン等をも接種したN F 一 k B p 欠損マウスを組らせた。マウスは、ワクチン等をも接種したN F 一 k B p 欠損マウスを組らせた。

（以下、組織方法を以て）本件マウスは、ワクチン等をも接種したN F 一 k B p 欠損マウスを組らせた。マウスは、ワクチン等をも接種したN F 一 k B p 欠損マウスを組らせた。マウスは、ワクチン等をも接種したN F 一 k B p 欠損マウスを組らせた。

（以下、組織方法を以て）本件マウスは、ワクチン等をも接種したN F 一 k B p 欠損マウスを組らせた。マウスは、ワクチン等をも接種したN F 一 k B p 欠損マウスを組らせた。マウスは、ワクチン等をも接種したN F 一 k B p 欠損マウスを組らせた。

## ④⑤⑥ 多数の記者はなぜ、村中さんに負けたか

◎記者たちは、池田氏の言うがままに書いた。反HPVワクチンの学者を信じて書いた。

◎しかし、どういう研究方法、どういう実験だったかを聞かずに結論に飛びついた。

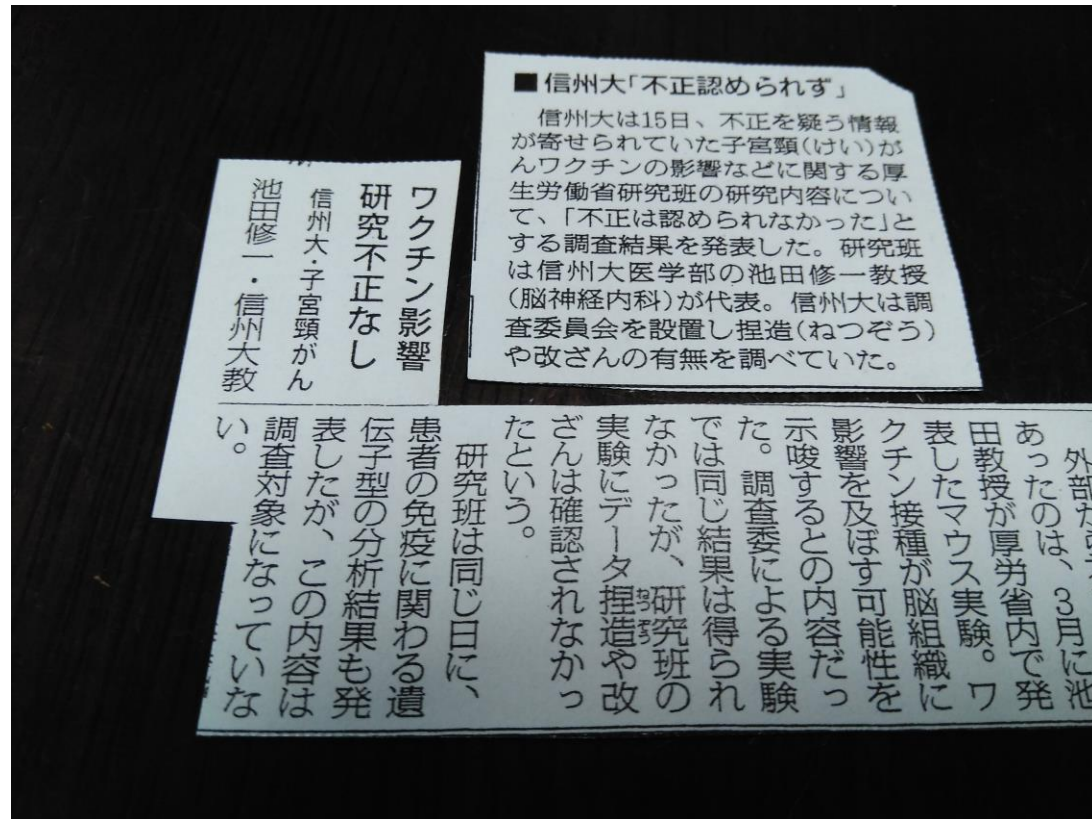
◎それで物語に富む記事は完成できたからだ。

◎しかし、それがマウス1匹の予備の予備、論文にもなっていないことに思いをはせなかった。

■結局、記者たちは結論ありきで書いていた。



# 池田氏の実験は報道に値する実験ではなかった。このとき新聞は「死んだ」



◎毎日、朝日、東京が「不正なし」の見出し。いままでとは考えられないほど小さい記事。

◎調査報告を詳しく報じなかった。なぜ、「新聞は死んだ」

◎調査結果を取り寄せた＝「ワクチンを直接接種したマウスではなく、そのマウスから血清を採取し、無垢のマウスの脳に反応させたもの。マウスは1匹で予備的な実験・・・」。村中さんの記事の通りだった。

◎大勢の記者が一人のジャーナリストに負けた。

なぜ、実験の不備よりも  
「不正なし」を優先したか。

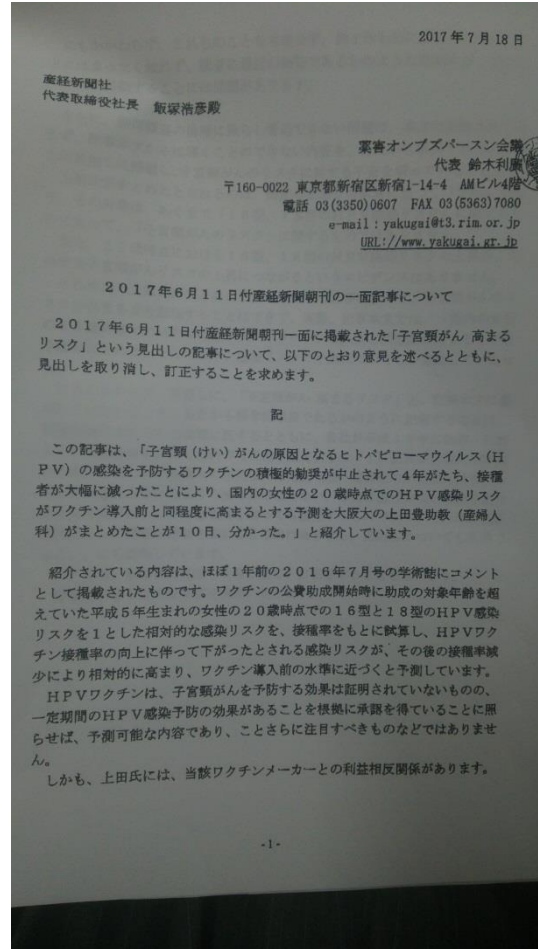
これまでの被害者側に立った報道の支柱は  
池田氏の研究にあった。池田氏の研究が予備的なもの  
なら、過去の報道は間違い（不正確）だったことになる。  
過去の報道と齟齬が生じたため、半ば沈黙した。

新聞テレビは世間に弱い。ネットに負けているのでは！

- 新聞メディアは「市民、大衆の代理機関としての言論機関」と「権力を監視する真実の使徒」を期待される。
- 権力からの圧力を恐れて、委縮していると批判されるが、実は市民からの圧力を恐れて、世間を忖度して自主規制、委縮する姿のほうが実態では」

◎HPVワクチンの科学的な情報はネットでしか分からない。新聞、雑誌、本も含め全メディアでは分かるが。ネットのほうが多様な情報に富む。

# 市民団体が記者クラブに抗議書 「ワクチン中止で高まるリスクに 科学的な根拠なし」と猛抗議



◎17年7月18日、薬害オンプが記者クラブの壁に産経新聞の記事への抗議書を貼り付けた。

◎記者クラブは自主・独立のはず。

◎市民団体の意に沿わない記事には、こうして抗議します、のメッセージ。

◎15年12月名古屋市が「接種、非接種で差なし」の報告。市民団体は猛抗議。16年6月名古屋市は「撤回」と朝日、HNKが報じた。市民団体は行政を変える力あった。

# 17年11月、村中さんがジョンマドックス賞受賞。東京新聞だけが大きく報じた



◎村中さんを報じると①新聞メディアの過去の報道に偏り、間違い、ゆがみがあったことが分かる②池田氏のこれまでの研究を否定することになる③市民団体から反感を買う。

◎毎日新聞の外部筆者の坂村健氏、三浦瑠璃さんが「なぜ受賞を報じないか」と執筆。

◎私が書こうとしたが反対意見に押された。しかし、東京新聞の2人の記者が書いた。



# ③HPVワクチンの科学的な側面はほとんど知られないままに終わった

- ・HPVワクチンは危ないというイメージが定着しただけで終わった。  
宮坂昌之・元日本免疫学会会長が「免疫力を強くする」（講談社ブルーバックス）で「マスコミ側に科学リテラシーにやや問題」と指摘。  
メディアは間違っただけで、軌道修正せず、沈黙するのみ。



# ワクチン報道から分かること

- ◎記者は、自分の過去の報道と食い違うことを報じない。いったん路線が破綻すると何も書かなくなる。
- ◎多数の科学者の意見、見方はネットか雑誌しか分からない。もはやテレビ・新聞の存在義は低くなった。
- ◎NHKなどで地方の医師を取り上げ、ワクチンの重要性を紹介するニュースが出始めた。地方の記者は、しがらみがない。新鮮な気持ちで書けるかもしれない。
- ◎ネットのほうが多様な情報が分かる。「ネットは社会を分断しない」（田中辰雄ら）。新聞のほうが分断している。

なぜ、多数科学者の意見は軽  
視されるのか。  
メディアと市民は共犯関係か

食品添加物、農薬、放射線リスク、ゲノム編集、GM作物などは多数の科学者の声が届かないのはなぜか。メディアが市民の声を重視するからか？地球温暖化問題は多数派科学者の意見を載せている。危ないと叫ぶから。

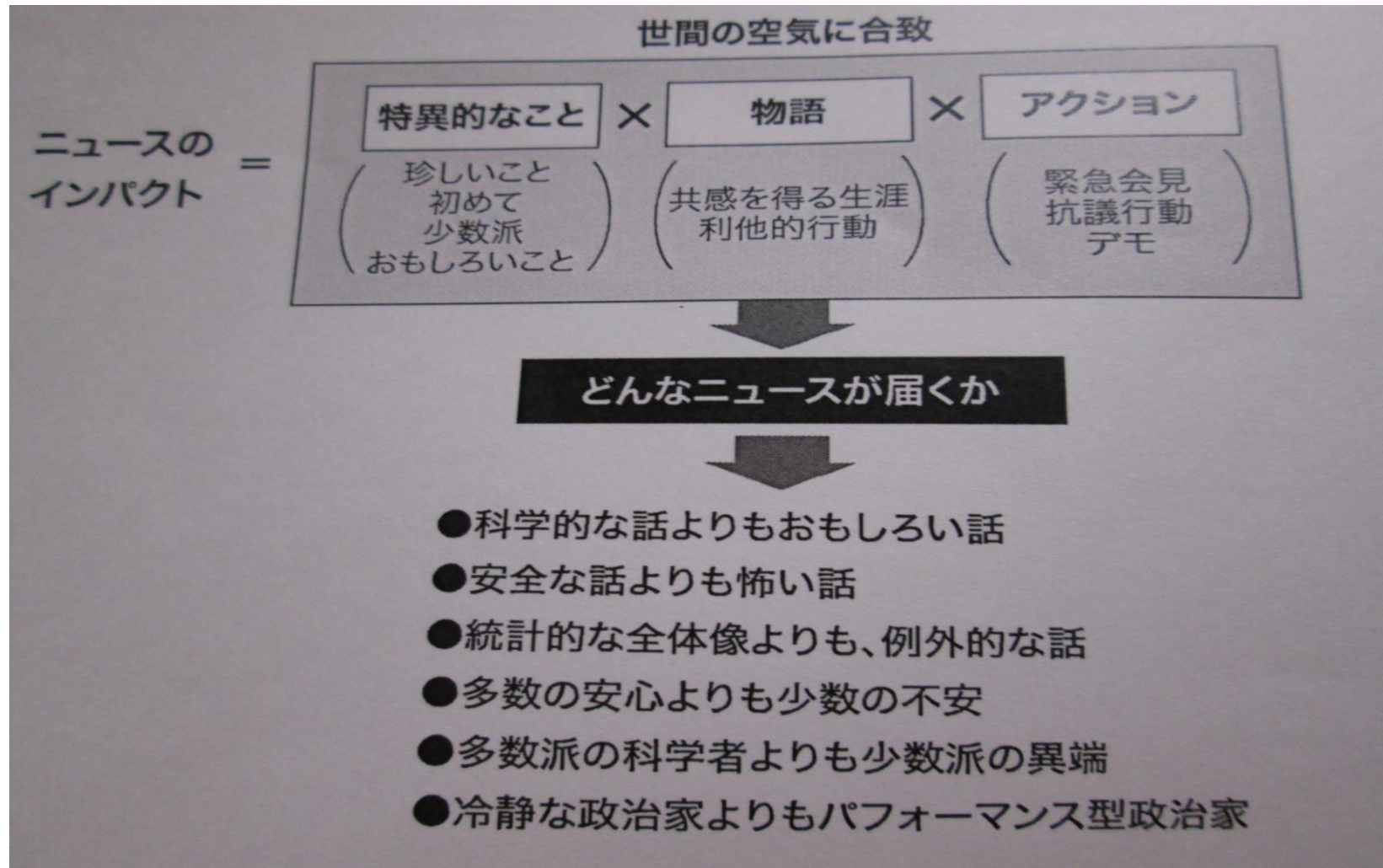
# 報道と多数派、少数派閥の関係

	多数派科学者の 考え方	少数派科学者・市民団体 の考え方	報道スタンス
遺伝子組み換え作物	安全	危ない・表示必要	危ない・表示必要
残留農薬	安全	危ない	危ない
子宮頸がんワクチン	安全（有効）	危ない	危ない
食品添加物	安全	危ない	危ない
トリチウム水	安全	危ない	危ない
地球温暖化	地球が危ない	懐疑的（危なくない）	危ない

## ⑤ ネットのほうの情報量が豊富 (ケアネットニュース・今年1月)

- ① HPVワクチンの接種推進の取り組み (第23回日本ワクチン学会学術集会)
- ② 電子タバコ関連の肺障害、酢酸ビタミンEが関与か (末尾に論文)
- ③ 寝不足が脳に与える影響は深刻 (末尾に論文あり)
- ④ 専門家による「わかる統計教室」 (連載) ・統計の基礎が理解
- ⑤ 果物や野菜の摂取とうつ病との関連 (末尾に論文あり)
- ⑥ 学習アプリで子どもは賢くなるか? (末尾に論文あり)
- ⑦ アルツハイマー病の進行予測にタウたんぱくPETが有用か
- ⑧ 肉や脂肪の多い食事の高齢者は後期加齢黄斑変性リスクが3倍 (末尾に論文)
- ⑨ 日本人の食事摂取基準 (2020年版) の主な改定ポイント

ゆがみのニュースの方程式。ニュースの構図をどう変えていくかが課題。



# まとめ

- ◎いまの既存メディアのどこが問題なのか。
- ◎新聞・テレビ離れが起きる要因は何か
- ◎新聞の記事の書き方、構図はこれでよいか
- ◎新聞に反論のページをもうけて、双方向のやりとりで信頼を回復することは難しいか。もっと訂正を出せる方策はないか。
- ◎テレビの健康番組はこれでよいか。
- ◎新聞の健康・科学記事に出典、根拠を必ず示すことは無理か。
- ◎どうすれば、既存メディアは生き残ることができるか